

## 国際理解教育の展開 異文化交流の実践

駿台学園高等学校長 瀬尾 秀 彰

### はじめに

駿台学園は、1932（昭和7）年2月、その名のとおり、東京・神田駿河台に創立した夜間の男子商業学校が興りである。その後戦火に遭い、終戦後男女共学とし、1963（昭和38）年8月、現在地の東京都北区王子に移転した。

創立当時は、戦時中でもあり、生徒は、昼間は働き、夜間に勉学するという晩学で、苦学力行の勤労青年がほとんどであった。そのため、徴兵によって生徒はしだいに減少せざるをえなかった。

駿台学園は、創立当初から教育の重要な柱の一つとして、国際教育をあげていた。もちろん当時のことでもあり、東南アジアを中心に展開され、中国、台湾、韓国、ヴェトナム、香港、シンガポール、マレーシアなどからの留学生をかかえ、日本人学生との融和をはかっていた。

いま、日本中の学校が、学種にかぎらず、ことごとく国際理解教育、国際教育を声高にかかげているが、駿台学園は、すでに70年前から、国際教育の重要性を主張していた。その証左として、世界6か国、11の学校と姉妹校関係を提携し、生徒の交換・交流はもとより、教員の交換、同窓生、保護者の交流を行っている。

### 日韓の姉妹校は日本最初

世界6か国、11校と姉妹校関係を提携する端緒は、駿台学園の卒業生で、韓国ソウルのソラボル芸術大学学長・韓国民俗学会会長の任東權博士（文化勲章受賞者）の骨折りで、1963（昭和38）年8月に調印されたことによる。

当時の日韓関係は、きびしい状況で、姉妹校提携など、考えもおよばなかった時代であったが、韓国の名門ソラボル学園（設立者：金世淳博士・私立）の熱心な要請に応えたものだった。

その韓国には、任博士のお世話によって、ソウルの国楽芸術学校との姉妹校提携が実現し、日韓両国の文化・芸術の交流が行われる。

40年間にわたり、①生徒の作品（書道、美術、デザイン）交換、②クラブ交流（アイスホッケー、華道、サッカー、柔道、音楽）、③教員交換、④保護者交流、⑤相互に記念植樹など、活発な国際交流が行われ姉妹校の提携効果をあげている。

とくに生徒の交流、教員の交換は、日韓両国の潜在するわだかまりを払拭することに成功し、韓国人の日本ファン、日本人の韓国ファンの拡大に大いに役立つことになった。

### 米国の姉妹校

これより、翌1964（昭和39）年5月には、米国カリフォルニア州の名門アテニアン・スクー



ル（設立者・D.ブラウン博士・私立）よりの姉妹校の提言によって提携した。カリフォルニアの名山ダイアプロの山麓に展開する広大な大自然のなか、キャンパスに佇むと、しばし、われを忘れたある種の陶醉にひたることができる。生徒たちの感激はひとしおであった。

ここでも、①生徒作品の交換、②生徒の交流、

③教員の交換、④相互に記念植樹、などを行った。とくに、1974（昭和49）年には、駿台学園の第1回海外サマースクールの拠点として、大きな成果をあげることができた。

また、1965（昭和40）年には、ワシントン州のグランドビュー学校（公立）、ニューハンプシャー州のホワイト・マウンテン学校（私立）との提携が行われ、生徒交流を行った。



### オーストラリア、ニュージーランド

1980（昭和55）年には、シドニー市の聖イグネシアス学校（私立）、メルボルン市のエルサム・カレッジ（私立）、パース市のウイレトン学校（公立）、さらに1988（昭和63）年には、バックスター市の聖ポール学校（私立）との姉妹校提携が次つぎに行われ、①生徒交換、②生徒作品交換、③教員の交流などが新しい展開となった。



オーストラリア、ニュージーランドとの交流は活発で、大きな成果をあげることができた。

姉妹校との生徒交換にあたり、駿台学園よりの長期留学生は希望者のなかから、英語、社会（歴史・地理）、作文の試験と本人と保護者との面接を行い、決定している。

出発の3か月前より、留学先の歴史、日本との関係などの事前指導、とくに英語特訓を重ね、送り出すことになる。

現地からは、毎月2回のレポート提出を義務づけ、帰国後は全校生徒への報告と、レポート提出

をさせている。また、PTA役員会等で報告など、定着している。

海外の姉妹校からの長期留学生は、在籍校の選考によるが、引き受けにあたっては、①ホーム・ステイ先はなるべく両親の仕事と関連している職業のホストを探す、②本人の興味をもつものを優先して見学、③日本文化、芸術、芸能、スポーツ等の見学・鑑賞、④日本各地の旅行⑤駿台学園の軽井沢林間施設の宿泊、など、多彩な受け入れをしている。

### 台湾・ドイツの姉妹校

1979（昭和54）年には、台湾・台北市の東山学校（私立）と、1985（昭和63）年には、ドイツ



のブラウンシュバイク市のマルティーノ・カタリネウム校（MK校、公立）とそれぞれ姉妹校提携を行い、生徒交流、生徒作品の交換をしている。

とくにドイツのMK校とは、17年間にわたって、奇数年はMK校が日本へ、偶数年は駿台学園がドイツへの相互交流をつづけている。日独両国は、ともに第二次世界戦争後に奇跡的な経済復興を果たしたことで、地球の東西で共通の悩みと喜びを体感するには格好の交流といえよう。

それぞれの中・高校生たちが、ホーム・ステイによって、食習慣や文化のちがいを体験することはすばらしいことだ。日本滞在中の美術館、博物館、歌舞伎、能、狂言、相撲などの見学・鑑賞によって、日本の伝統文化を理解させている。さらに北区長の表敬訪問をしている。

このことから、双方の所在市と姉妹都市提携が提案されるなど、この交換プログラムはとくに注目されている。

## 28年間の歴史を誇るサマースクール

1975(昭和50)

年夏には、姉妹校の米国・カリフォルニア・アテニアン・スクールを拠点に、



サンフランシスコ州立大学における語学研修を2週間、終了後米国の名所をたずねた、第1回海外サマースクールは、大成功を収め、以降10年間を米国で、UCバークレー校、UCサンディエゴ校で開催した。

その後、英国のフェアラムで5年間、そして、アイルランド国政府の強い要請によって、1989(平成元)年4月に開校した駿台アイルランド国際学校を拠点の海外サマースクールは、本年で28回を迎えた。

毎年30名程度の中学・高校生が、ホーム・ステイをしながら、英語研修に励み、週末はア



イルランドのケルトの古都や遺跡をめぐり、2週間の現地学習をこなし、その後ヨーロッパ各地を訪れ、ヨーロッパの偉大な文化に直接触れるなど、幅のある大志をもった生徒に成長していく様子を見て、保護者も教員も満足している。

## 諸団体の留学生を迎えて

このような、永年にわたっての国際教育の実績に着目した国際交流諸団体からの委嘱によって、海外各地の留学生の引き受けをしている。米国、カナダ、オーストラリア、フランス、オーストリア、中国、韓国、シンガポール、フィリピン、イ

ンドネシア、ヴェトナム、ロシアと地球上の各国からの留学生の引き受けによって、校内に活気が出て、国際交流の実をあげている。

これらの留学生たちは、あるときは、文部科学省、東京都などの公的機関や、AFS、ロータリークラブ、ISAなどのNGOの諸団体の委嘱によるもので、なかには、他校で3か月通学したが、「どうしても帰国したい」という今様の不登校生であったものが、駿台学園では、元気で、積極的に学園生活を送っている姿を見て、国際教育の歴史と実績に自負することもあった。

## まとめ

いまから30年前に、ユネスコは国際理解教育 International Understanding Educationを国際教育 International Education に大きく変更したが、それには理由があった。

国際理解教育の欠点は、地球上のさまざまな南北問題の存在を事象として理解するだけでは学校教育の使命を果たしていない。理解をしたら、実行すべきであると、国際教育とした経緯を、われわれは改めて理解すべきであろう。

とくに駿台学園の姉妹校は、すべて、先方の学校からの姉妹校提携依頼によるものが特徴で、駿台学園から「ぜひ姉妹校を」というケースは一つもなかったことを付言したい。このような多面にわたった交流も、日本円の高低によって、あるときは多数、あるときは断念せざるをえなかったこともあった。

いまやNGOやNPO活動は、学校はもとより、社会、国家、それに地球規模で展開されるものとなった。これらの諸活動が、幅広い範囲で実行されることが重要な方向といえよう。そのためにも、中学・高校生が国境を越えた交流をつづけることによって、国際感覚を育み、国際平和の実践者として、貢献することへの期待は大きい。